

# 日本経済の死角

B N P パリバ証券 経済調査本部長・チーフエコノミスト

河野の  
龍太郎

- \*生産性が上がっても賃金は上がらず
- \*レント・シェアリングが行われなかった日本
- \*人件費抑制で膨れ上がった利益剰余金
- \*気づかれない「実質ゼロバア・ノルム」
- \*無理があつた米国流コーポレートガバナンス改革
- \*配当金は9倍、人件費は横ばい
- \*収奪的な社会か、包摂的な社会か
- \*非正規雇用制は収奪的なイノベーション
- \*中小企業は大企業より賃金を多く払うべき
- \*日本流長期雇用制のよしあし



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

本日は、河野龍太郎先生をお迎えしました。

河野先生は、6月に東大の先端科学技術研究センターの客員教授にも就任されて、ますます活躍の場を広げていらっしゃいます。2022年に慶應義塾大学出版会から『成長の臨界』を出され、今年、ちくま新書から『日本経済の死角』を出されました。今日は筑摩書房の編集者の方に来ていただいています。お話を伺うとすでに7刷6万部以上売れて、多くの方に読まれている。事前に読まれてきた方もいらっしゃると思いますけれども、後ほど、ご興味のある方は手に取ってご覧いただければと思います。

河野先生は、たいへん人気のある講師の一人です。それは、日本経済に対する見方が信頼

されていて、その時その時に、河野さんはどう考えているのか聞きたいと思われているのだと思います。そして、ありきたりではなく、独自の視点でお話をされて、本を書かれている。

『日本経済の死角』も非常に面白い構成です。7章あり、7つの死角が書かれているのですけれども、章の初めに「本章で論じるのは実質賃金と生産性の関係をめぐる死角である」と始まるスタイルで、非常によく編集された本でもあるなど、同業者として感じております。本日は、その7つの死角のエッセンス、非常に重要なポイントをお話したいだけだと思います。

では先生、よろしく願いたします。（拍手）

河野 皆さんこんにちは。B N P パリバ証券